

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (22):17-27, 1995.

香川県の社寺林 (4) 主な構成樹種の分布について

新居 正 敏

〒762 香川県坂出市王越町 香川県自然科学館

Precinct Woods of Shinto Shrines and Buddhist Temples in Kagawa Prefecture
(4) Distribution of Some Major Component Species

Masatosi Nii, Kagawa Prefectural Scienum, Ogoshi-cho, Sakaide, 762 Japan

はじめに

香川生物19号, 20号および21号(新居, 1992, 1993, 1994)で, 香川県内の社寺林の調査法とその結果の概要, 樹林の階層構造と数種の分布, 創祀年代と社叢の構成樹種について報告した。

社寺林は, 社寺という性格上, むやみに伐採せず, 昔からある程度保存されてきたので, その樹林の構成種や分布を明かにすることは, その地域の原植生と解析する基礎データを得るうえで意義がある。

香川県の社寺林の高木(亜高木)または, 上層を占める主な樹種の分布については, これまでに, 氏家(1974), 藤原(1981, 1982, 1984, 1985, 1986, 1987), 新居(1993)等でいくらかの種についての報告はあるが, まとまった報告はされていない。

そこで, 香川県内(島嶼部を除く)の社寺林について, 高木(亜高木)または, 上層の主な樹種の分布地および, 海岸から内陸への距離と標高の関係を明らかにするための垂直分布をまとめたので報告する。

なお, この報告をまとめるにあたって, ご助言をいただいた末広喜代一(香川大学教育学部)氏に対し心より感謝の意を表する。

方 法

調査は1985年から1995年にかけて, 香川県内

(島嶼部を除く)432社寺林の高木(亜高木)または, 上層の樹種を記載し, その樹種が自生している社寺の分布図を作成した。

その際, 社寺叢を形成するまでにいたっていない社寺については, 記載対象外とした。また, 社寺林の高木(亜高木)または, 上層を占める樹種であっても, 明らかに栽植と思われるものや幼木(低木)は省いた。ただし, 栽植と考えられる樹種でも, 社寺林内にあって構成種と見られるものについては全て記載した。

島嶼部を除いて, 自生している社寺林を白地図上に表した水平分布図と, 標高(国土地理院; 5万分1地形図, m)と海岸からの距離(国土地理院; 5万分1地形図により最短距離0.1kmまで読み取った)の関係を表した垂直分布図を作成した。

香川県の社寺林の上層を構成する主な樹種は次の通りであった。

アカマツ, クロマツ, スギ, ヒノキ, エノキ, ムクノキ, ケヤキ, カゴノキ, タブノキ, クスノキ, ヤブニッケイ, モチノキ, クロガネモチ, ヒメユズリハ, ヤマモモ, イスノキ, モッコク, クヌギ, アベマキ, コナラ, ウバメガシ, アカガシ, ツクバネガシ, アラカシ, ウラジロガシ, シラカシ, シリブカガシ, ツブラジイ, ヤマザクラ, ナナメノキ, ソヨゴ, クロバイ, ホルトノキ。

マツクイムシ等の被害で急激に立枯が進んで

いるアカマツ・クロマツと、栽植と思われるスギ・ヒノキおよび、ナナミノキ、ヤマザクラ、ヤマモモ、ソヨゴについては今回は割愛した。

ツブラジイ、タブノキ、ウバメガンシ、ウラジロガシの水平分布は、すでに新居（1993）で示した。

結果と考察

ツブラジイは、本県の大部分の地域に帯状に分布しており、59社寺林で認められた。東讃では、海岸近く（海岸よりおよそ内陸に3km程度まで、以下同じ）に多少分布しているが、他の地域では、2社寺林を除いて平野部（中讃・高松地域では、およそ海岸より内陸に12km程度まで、東讃・西讃地域では、およそ5～10km程度まで、以下同じ）から山間部にかけて分布しており、海岸からおよそ内陸に25kmまで、標高約300m以下に分布域がある（新居，1993，P15，図4参照）。（図1，実線の平均標高と比較できる。以下同じ）。

タブノキは、西讃および綾上町の22社寺林で認められた。殆んど平野部から山間部にかけて分布しており、海岸より内陸におよそ10～20km、標高約200m以下に分布域がある（新居，1993，P15，図4参照）（図1）。

暖温帯・ヤブツバキクラス域では、海岸近くにも分布域をもっているツブラジイとタブノキが、本県では内陸部～山間部に分布していることは興味深い。

カシの類では、アラカシ、ウラジロガシ、シリブカガシ、アカガシ、シラカシ、ツクバネガシ等が構成種として確認した。

アラカシは、海岸から阿讃山脈の頂上近くまで、調査した殆んどの社寺林で認められた。

ウラジロガシは、県内全域で72社寺林で認められた。特に、財田町、仲南町、琴南町、満濃町、綾上町、塩江町等では、内陸部から山間部に多く分布している。標高約600m以下、海岸からおよそ30km内陸に入った地域まで分布域がある（新居，1993，P17，図8参照）（図2）。

シリブカガシは、主に西讃の平野部から山間部にかけて24社寺林で認められた。海岸よりお

よそ内陸に20km以内、標高300m以下に分布域がある（図3，図4）。

アカガシは、本県中央部の山間部から阿讃山脈にかけて19社寺林で認められた。大内町の豊田神社を除いて、標高約200m以上1000m近くまで分布している。

シラカシは、県内点々と7社寺林で認められた。海岸近くから山間部まで、標高約50mから150mの範囲まで分布している（図3，図4）。

ツクバネガシは、県内各地に点々と14社寺林で認められた。標高約500m以下、海岸近くから山間部まで分布している（図3，図4）。

ウバメガンシは、海岸から平野部にかけて帯状に分布しているが、大川郡内では山間部でも確認しており、東部にいくにつれて阿讃山脈まで分布域があり、149社寺林で認められた（新居，1993，P17，図7，P18参照）。

また、149社寺林のうち48社寺林が海岸から内陸へ1km以内に分布しており、海岸から内陸へ18kmあたりが分布地の境界であった。海岸近くでは、標高約500mまで分布していたので、本県の場合は標高よりも海岸から内陸部への距離が分布の条件であるように思われる（図5）。

クヌギ・アベマキ（クヌギまたは、アベマキ、クヌギとアベマキの両種を含む）は、海岸から阿讃山脈上部（標高約1000m）までの110社寺林で認められた。したがって、分布域は県内全域で、海岸から内陸への距離や標高には殆んど関係ないように思われる。

コナラは、比較的海岸および海岸近くの社寺林には少ないが、県内全域に分布しており115社寺林で認められた。特に平野部から山間部、阿讃山脈の上部の社寺林に多く分布している。

エノキ・ムクノキ（エノキまたは、ムクノキ、エノキとムクノキ両種を含む）は、調査した殆んどの社寺林で認められた。ただし、阿讃山脈の上部の社寺林には少ない。

ケヤキは、西讃の4社寺林を除いて、平野部から山間部にかけて35社寺林で認められた。海岸から内陸へ約30km、標高約750mまで分布している。特に、海岸から内陸へ10km以上、標高約100m～600mの範囲に多く分布している（図6，図7）。

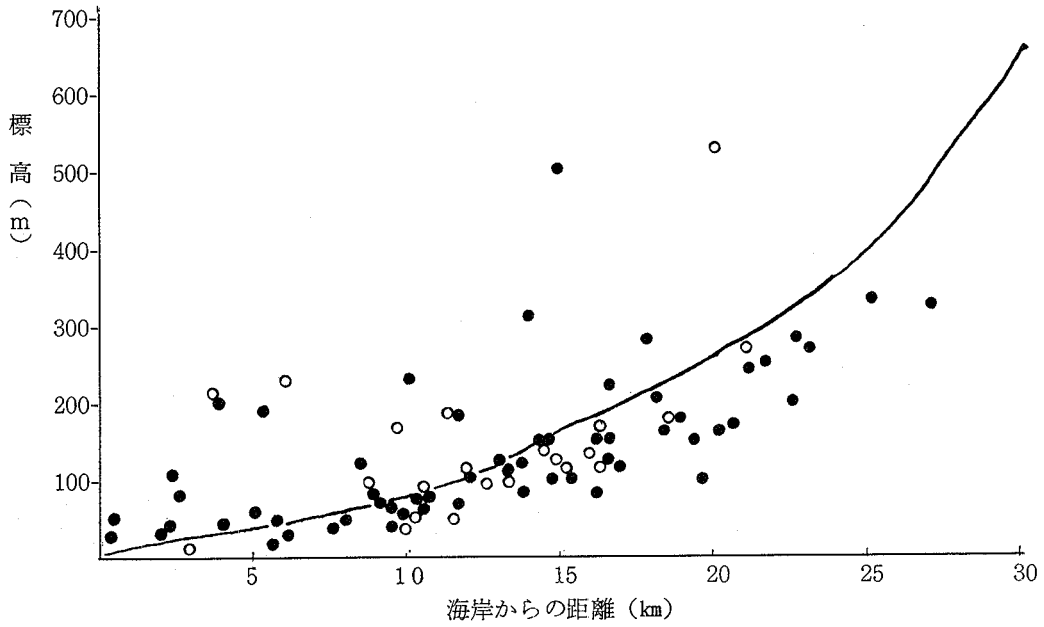


図1. ツブラジイ(●)・タブツキ(○)の垂直分布。実線は調査社寺林の平均標高を示す。
 (実線：海岸から内陸に1km毎にその間の社寺林の標高の平均をとり、実線で結んだもの、以下同じ)。

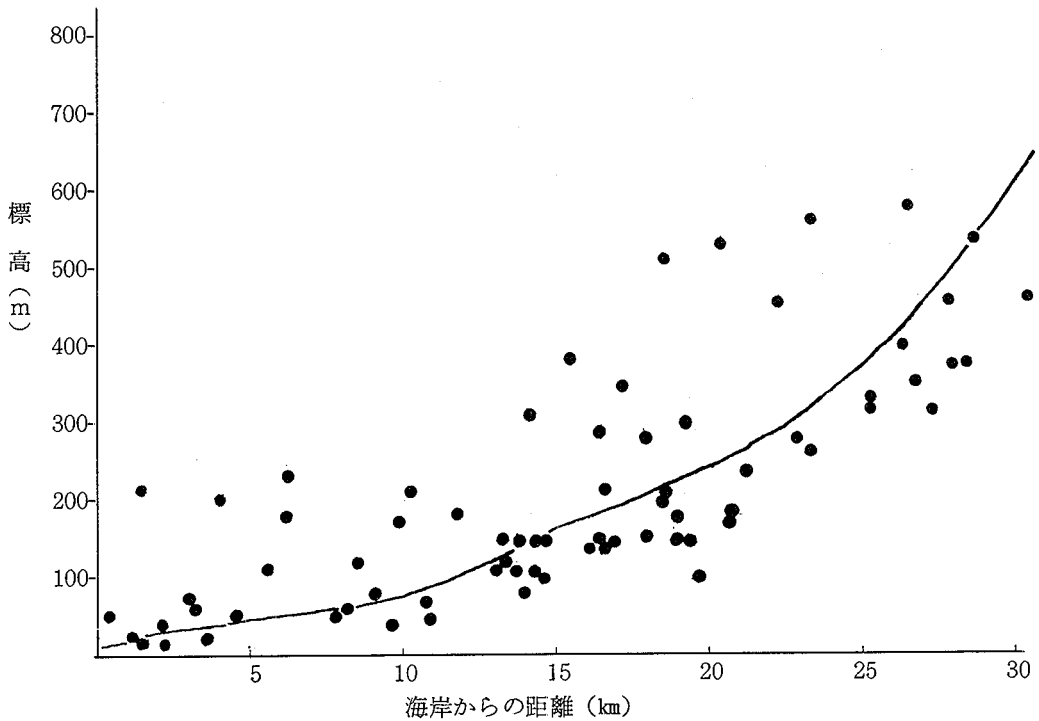


図2. ウラジロガンの垂直分布。実線は調査社寺林の平均標高を示す。

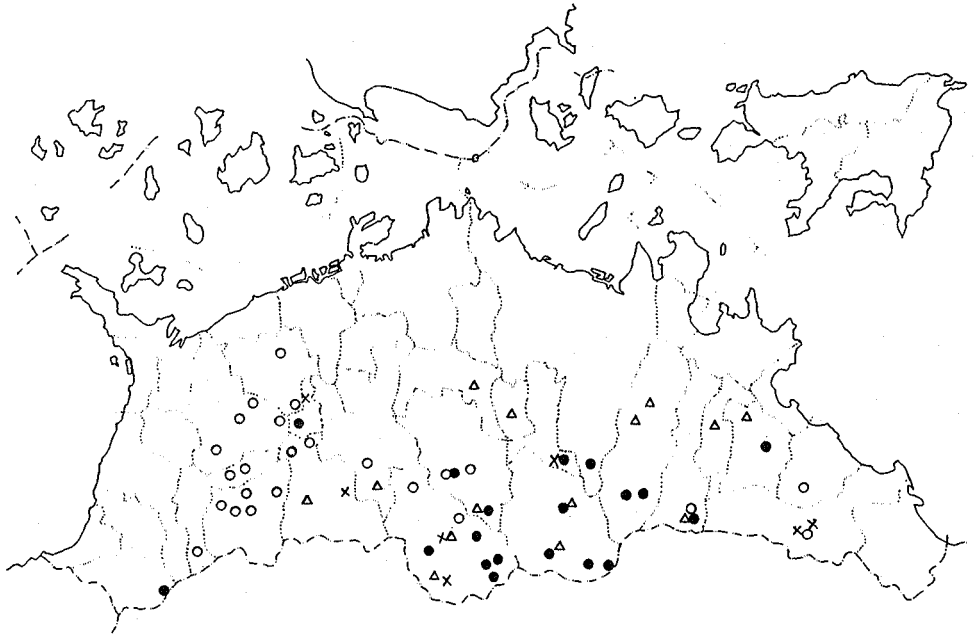


図3. シリブカガシ(O) アカガシ(●) シラカシ(X) ツクバネガシ(Δ) の水平分布.

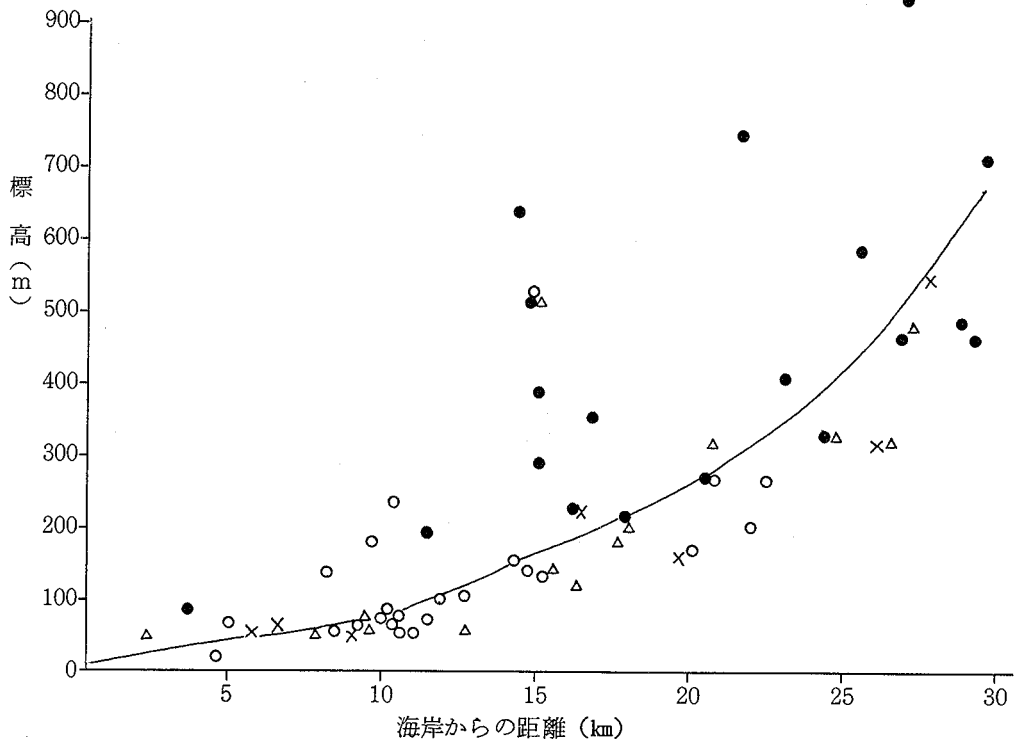


図4. シリブカガシ(O) アカガシ(●) シラカシ(X) ツクバネガシ(Δ) の垂直分布.
実線は調査社寺林の平均標高を示す.

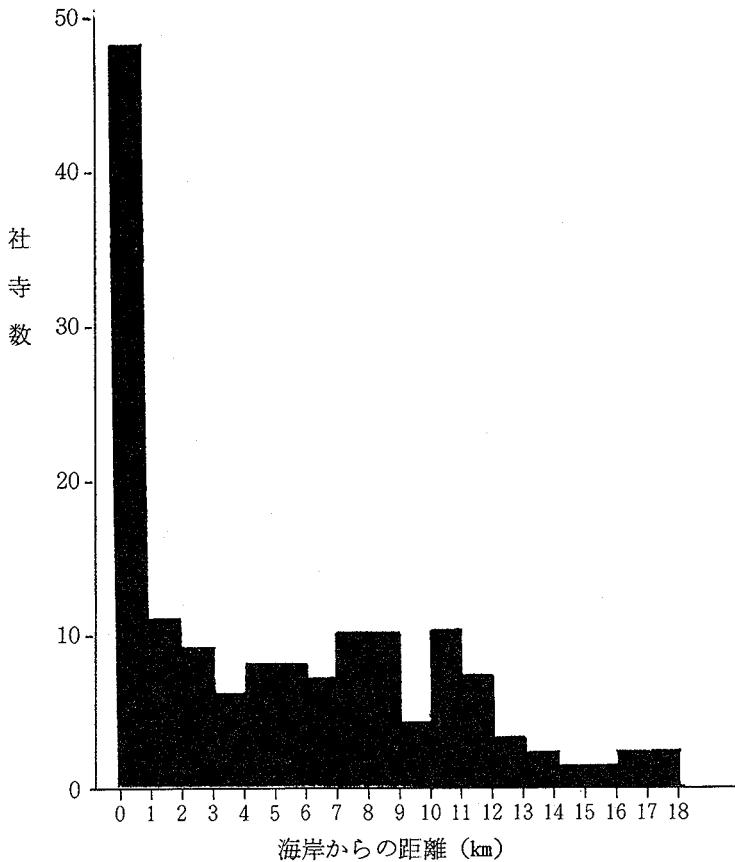


図5. ウバメガンの垂直分布.

クスノキは、調査した社寺林のうち、阿讃山脈の頂上近くを除いて、殆どの社寺林で認められた。したがって、本県の場合は、標高や海岸から内陸への距離に関係なく分布域がある。

ヤブニッケイは、クスノキと同様に県内全域で154社寺林で認められた。海岸から阿讃山脈の上部（標高約800m程度）まで平均に分布していたので、本県の場合は標高、海岸から内陸への距離に関係なく分布域がある。

カゴノキは、県内に広く分布し、72社寺林で認められた。特に、中讃～西讃の平野部から山間部の社寺林に多い（新居, 1993, P16, 図6参照）。また、海岸より内陸へ25km以内、標高およそ400m以下に集中している（図8）。

クロガネモチは、主に海岸から平野部にかけて帯状に分布しており128社寺林で認められた

（新居, 1993, P16, 図5参照）。標高およそ150m以下、海岸から内陸に15kmまでに117社寺林が分布しており、標高が低く、海岸に近い地域に集中している（図9）。

モチノキは、東讃と中・西讃の1部で24社寺林に認められた。海岸から内陸へ25km程度、標高およそ300m以下の社寺林に分布域がある（図11, 図12）。

イスノキは、主として東讃と西讃の19社寺林で認められた。海岸から内陸へおよそ10km程度、標高約100m以下の社寺林に集中している。標高380mの1社は分布的に特異である(図10, 図11)。

モッコクは、県下全域、阿讃山脈の上部を除いて、海岸から山間部までの120社寺林で認められた。特に平野部から山間部にかけて多く分布している。



図6. ケヤキの水平分布

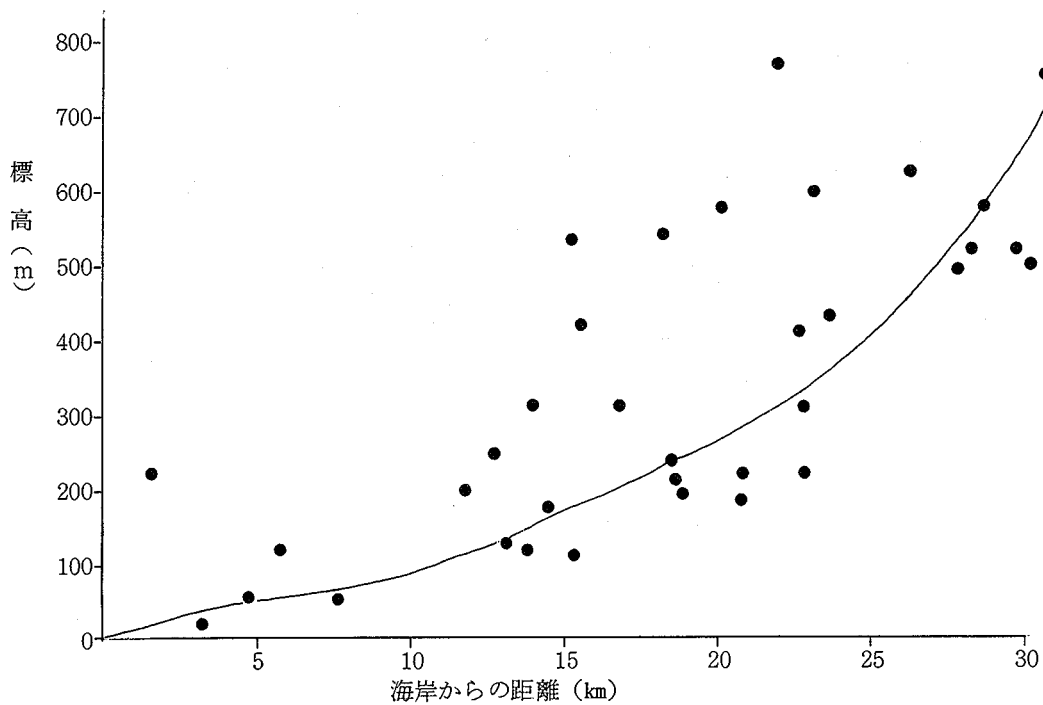


図7. ケヤキの垂直分布. 実線は調査社寺林の平均標高を示す.

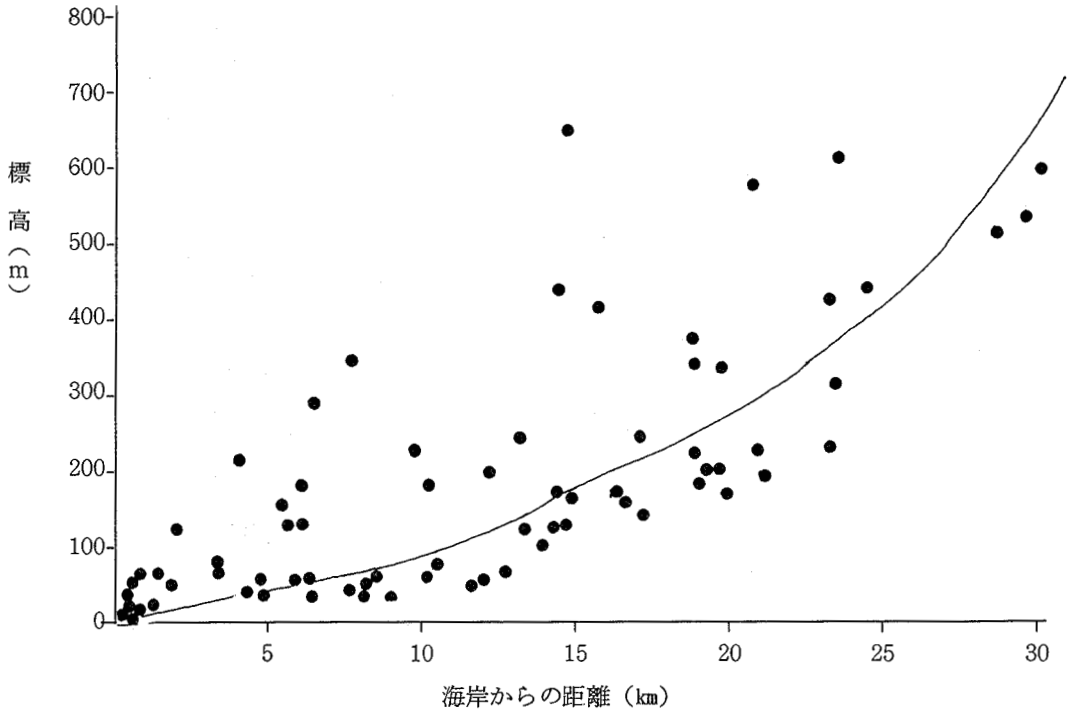


図8. カゴノキの垂直分布. 実線は調査社寺林の平均標高を示す.

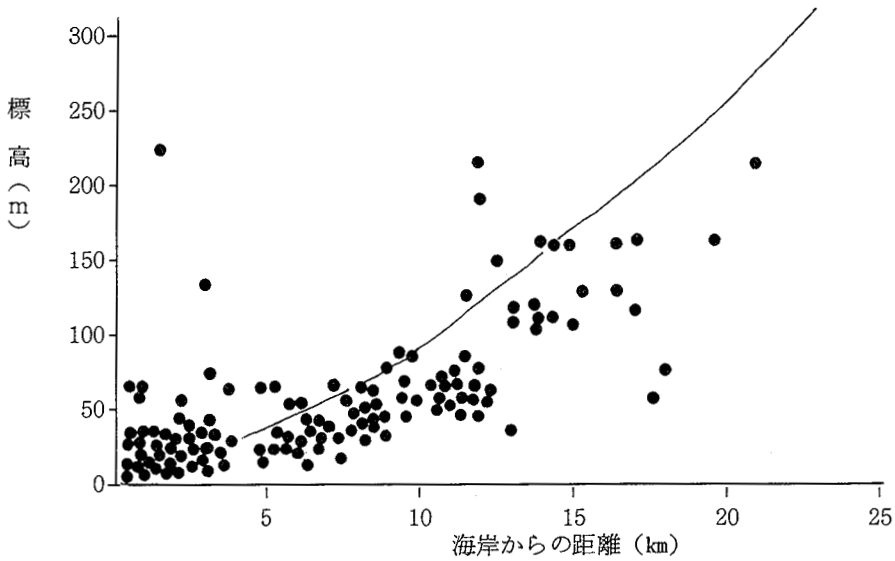


図9. クロガネモチの垂直分布. 実線は調査社寺林の平均標高を示す.

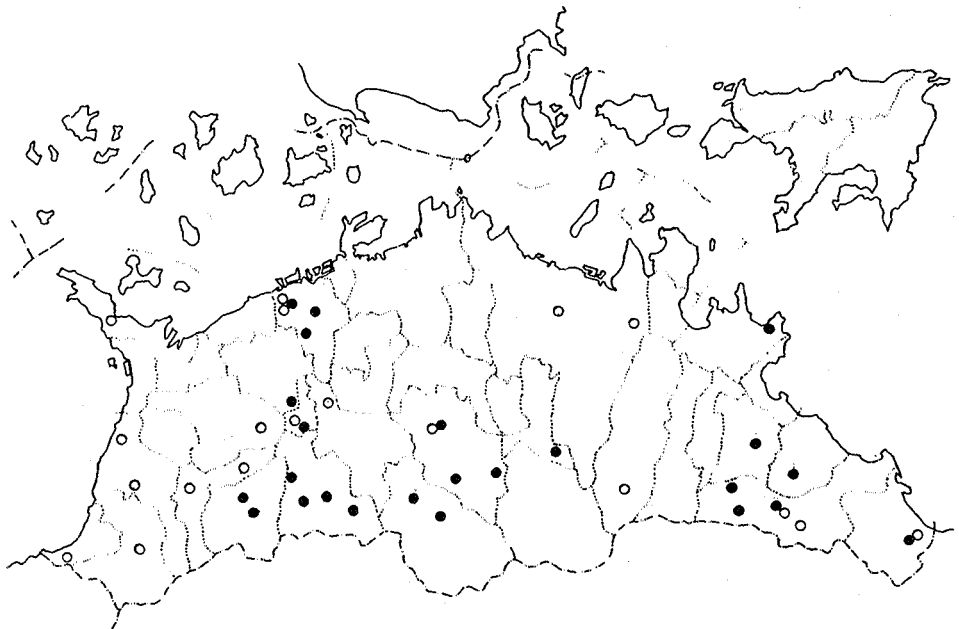


図10. モチノキ(●) イスノキ(○)の水平分布

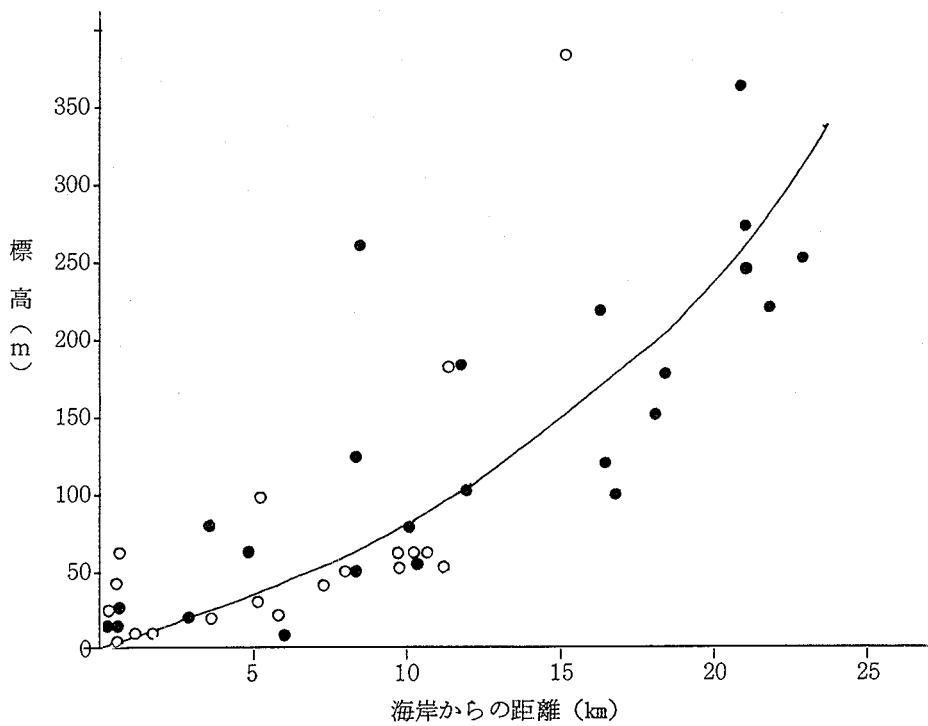


図11. モチノキ(●)とイスノキ(○)の垂直分布．実線は調査社寺林の平均標高を示す．

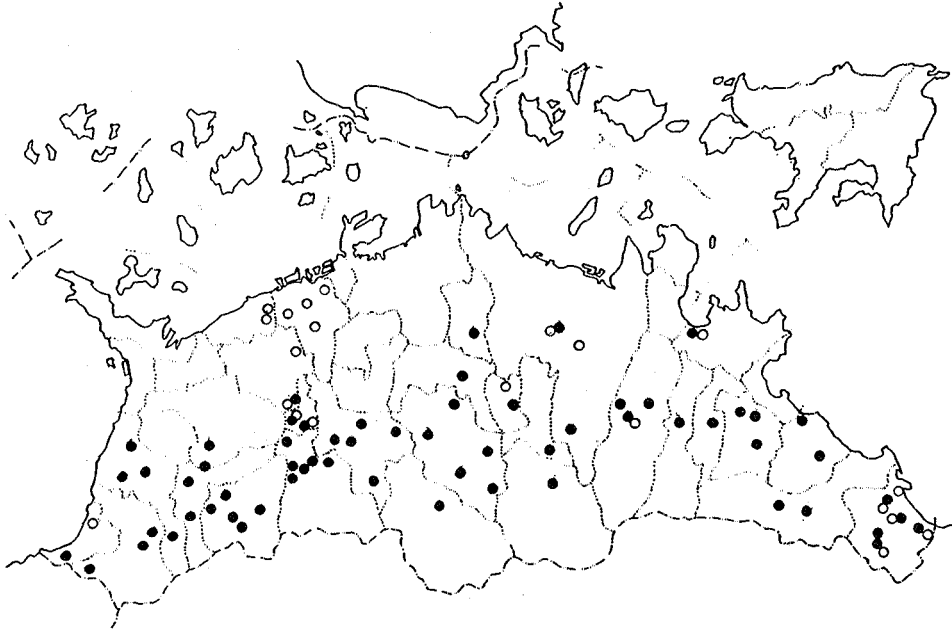


図12. ヒメユズリハ(●)ホルトノキ(○)の水平分布

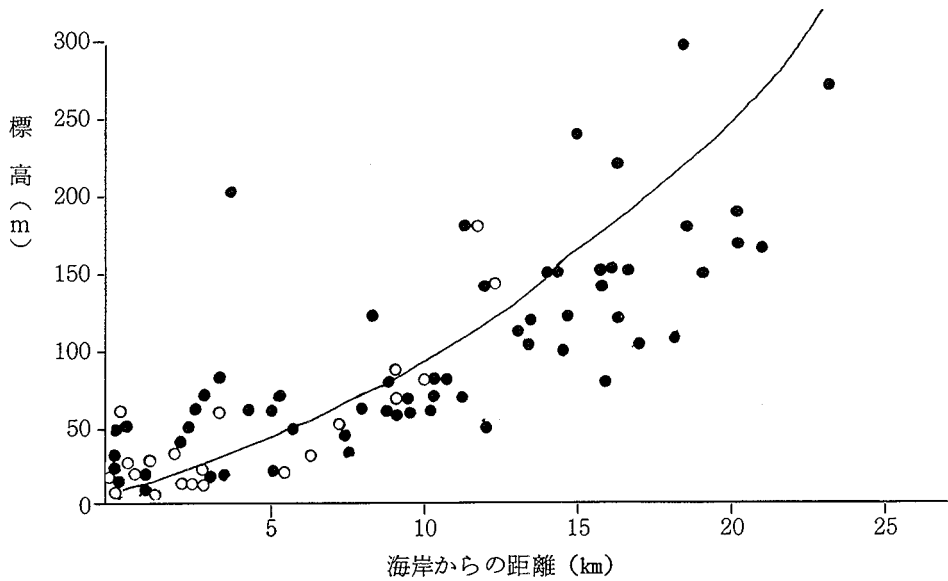


図13. ヒメユズリハ(●)ホルトノキ(○)の垂直分布．実線は調査社寺林の平均標高を示す．

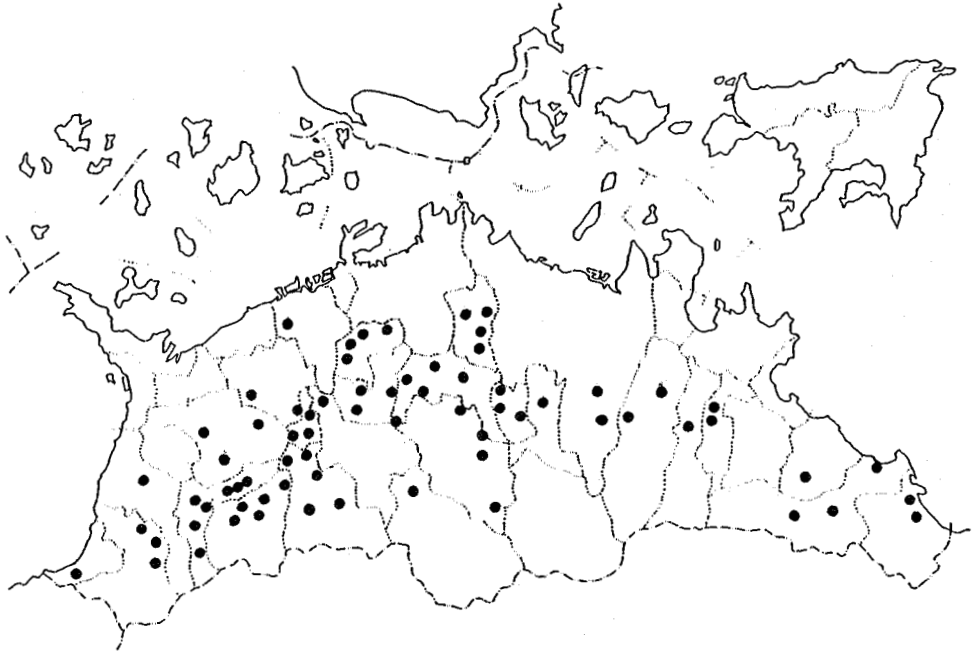


図14. クロバイの水平分布

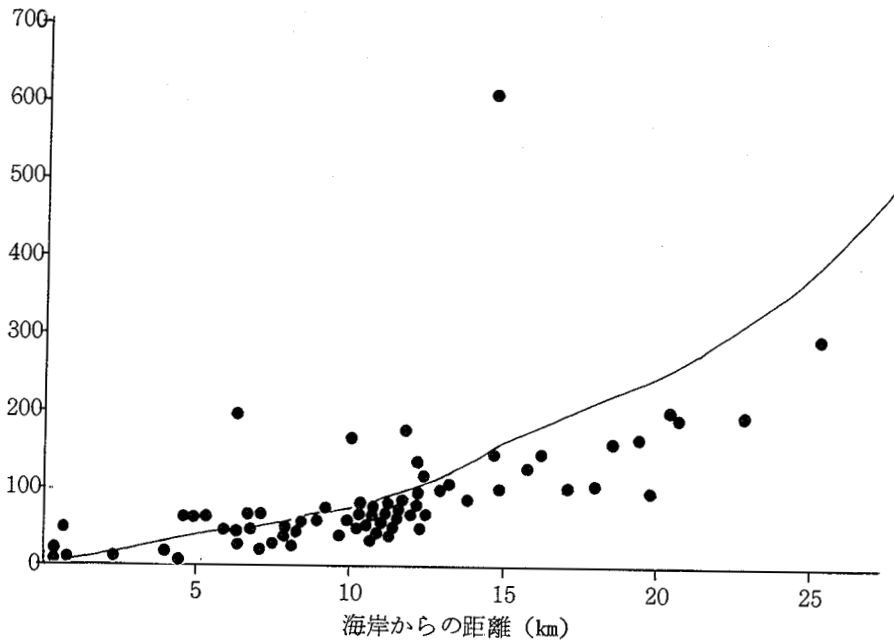


図15. クロバイの垂直分布．実線は調査社寺林の平均標高を示す。

ヒメユズリハは、東讃と西讃では海岸から山間部まで、中讃・高松地域では平野部から山間部にかけて帯状に分布しており、61社寺林で認められた。およそ海岸より内陸へ20km程度、標高約200m以下に分布域がある(図12, 図13)。

ホルトノキは、東讃、高松地域、西讃の1部に分布がかたよっており21社寺林で認められた。標高約100m以下、海岸より内陸へ10km程度に集中しており、本県の場合、海岸近くの平地に分布域がある(図12, 図13)。

クロバイは、主として平野部から山間部にかけて70社寺林で認められた。特に、中讃から西讃に多く分布しており、海岸より内陸へ5km～15km、標高約100m以下の社寺林に多い(図14, 図15)。

摘 要

島嶼部を除いて、県内432社寺林の高木(亜高木)、上層の構成樹種のうち主なもの33種類中25種類について分布をまとめた。

その結果、クスノキ、アラカンは、調査した殆どどの社寺林で認められたので、分布域は本県全域であると思われる。

エノキ、ムクノキは、阿讃山脈の頂上近くを除いて、調査した殆どどの社寺林で認められた。

アベマキ、クヌギは、県下全域に、コナラは、平野部から山間部に多く分布していた。

ツブラジイは、海岸近くから山間部にかけて帯状に分布しており、中讃・西讃で多く認められた。タブノキは、西讃の山間部に集中していた。カシの類では、アラカン以外でウバメガシの149社寺林が最も多く、その殆どが海岸近くに分布していた。アカガシは、県中央部の標高の高い山間部～山地に、ウラジロガシは、海岸よりも内陸部～山間部にかけて多く、シリブカガシは、西讃の平野部～山間部に多く分布、また、シラカシは少ないが県内に点々と認められるなど、それぞれ特徴のある分布域が明らかになった。

ケヤキは、山間部の標高の高い地域に多かった。ヤブニッケイ、カゴノキは県内全域に分布

していた。クロガネモチは、海岸～平野部の標高の低い所に多く分布していた。モッコク、クロバイは、平野部～山間部に多く分布していた。その他、モチノキ、イスノキ、ヒメユズリハ、ホルトノキ等は、認められた社寺林は多くなかったが、それぞれ特異な分布を示し興味ある結果を得た。

引用文献

- 藤原滝雄. 1981. 土器川水系におけるブナ科植物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(土器川水系): 69-77.
- . 1982. 香川県中讃西部地域のブナ科植物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(香川県中讃西部地域): 179-219.
- . 1984. 財田川・柞田川・高瀬川水系及び荘内半島におけるブナ科植物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(香川県西讃地域): 131-148.
- . 1985. 香川県中讃東部地域におけるブナ科植物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(香川県中讃東部地域): 130-172.
- . 1986. 香川県東讃地域におけるブナ科植物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(香川県東讃地域): 99-146.
- . 1987. 香川県小豆島地域におけるブナ科植物の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(香川県小豆島地域): 87-101.
- 新居正敏. 1992. 香川県の社寺林(1)調査方法と結果の概要. 香川生物(19): 75-84.
- . 1993. 香川の社寺林(2)樹林の階層構造と樹種の分布について. 香川生物(20): 11-20.
- . 1994. 香川の社寺林(3)創紀年代と社叢の構成樹種について. 香川生物(21): 25-32.
- 氏家由三編. 1974. 香川の動植物. 高松市役所, 高松.